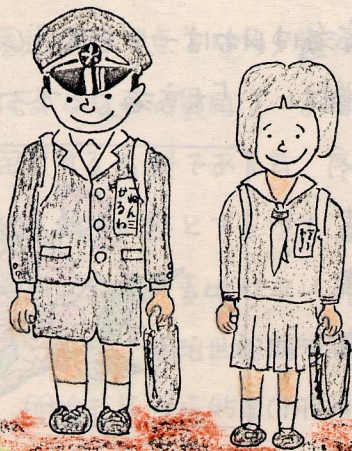




かるね

43号



もくじ

明治の国語辞典…… 2

参考図書の解題…… 3

とよかん
ひとくちメモ…… 4

おしらせ…… 4

開館時間

〔平日 8:50~18:30〕
〔土曜日 8:50~16:30〕

学習院大学図書館 運用課 (内78)

—— 明治の国語辞典 — 「言海」をめぐって ——
展示解説 (二階目録室)

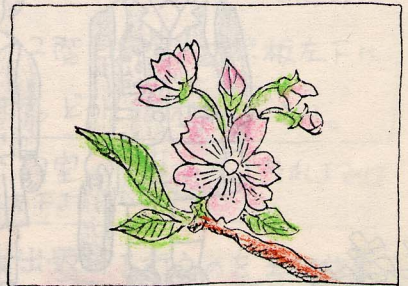
○言海 (大槻文彦)

文明開化を急ぐ政府はウエブスターの辞書に匹敵する国語辞書「語彙」を計画したが、三年で中断してしまつた。新たに大槻文彦の手にこの事業を委ねることになった。四万語の原稿が苦勞の末明治19年に完成したが、二年近く文部省に眠つたままになっていた。自費で出版するという事で、これを下賜され、私財を投じて明治24年に全3冊が完結した。展示したのはこの合冊本である。

○大言海

多くの辞書が作られた中で「言海」はいわば一世を風びし、各種の版が出たが、明治45年にこれを大增訂して「大言海」とする計画をたて、以来16年この仕事に打ち込んだ。

業半ば84才で他界するまで、辞書一筋の一生であった。この間の事情は、大仏次郎賞を受けた高田宏著「言葉の海へ」(新潮社1978)に



くわしい。文彦の意志は兄の如電に引き継がれ、昭和12年に全五巻が完成した。

○ことばのはやし (物集高見) 明治21年。

○ことばのそと (近藤真琴) 明治18年。

○和漢雅俗いろは辞典 (高橋五郎) 明治22。明治21年に同著者の「葉英対照いろは辞典」から英語を省いたもの。

上記などの辞書がこの時期に作られたが、どれも大槻文彦のそれよりもずっと後れて着手したものでありながら「言海」の出版の遅れを尻目に相ついで出版された。

—— 佐野 ——

参考図書 の 解題 —— 2F 参考図書室の本

◎ R.703-12a 『美学事典』 増補版 竹内敏雄編集 弘文堂 '77

I. 構成 前半；一般美学ないし芸術一般の理論にあて、さらに美学史部分と体系部分とに両分し、最近の研究動向を地域別に解説する。後半；諸特殊芸術学、すなわち美術学、音楽学、文芸学、^演劇学、映画学の5部に分け、終りに芸術教育の部を添える。

全体；諸項の論述は原則として最近10年間の事態に限る。また、日本国内の美学研究には言及していない。

II. まとめ 5部の諸学については各専門家の分担執筆形式の為、一貫した著述体系の点では多少難が無くもない。(例は、歴史的変遷に言及するしないの異同) また、各項目の選定にあたっては基本概念に限定する方針である旨、序で述べているが「○○とは何か」という観念論を内容とするゆえ、上記5部の諸芸術学以外にも哲学、神学等広い教養の素地がないままでは、使いこなすのは難しい。(中野)

◎ R 210.71-34 『明治世相編年辞典』 朝倉治彦・稲村徹元編 東京堂出版 '65

本書は、明治元年から45年(9月)に至る国内の社会風俗・世相についての事象を年月日順に集録したものである。本書は辞典と表記してあるが、社会風俗年表として始められたため、巷間の些事や雑芸遊興の類についての記事にやや付たよった面があり、編年資料集としての史料的价值を保ちながら溘然通読しても明治世相史の興味ある読物となる。また、東京だけに限らず文明開化の影響の強い大阪・京都・函館・横浜・神戸・長崎についても集録されている。さらに中央文化の地方伝播傾向を見るために、名古屋、仙台その他の数都市における諸相も加えられ

ている。そして各年の初めに、内外情勢一般の略年表も、年末に統計、出版物、新聞雑誌の一覧を載せている。

付録には主要法令、東京顕職、東京の緑日、明治文化財、参考図書、東京市内商品小売相場等の一覧、それに東京四季遊覧暦、忌辰一覧、主要新聞、主要雑誌の発行部数一覧が載っている。694p〔中村〕

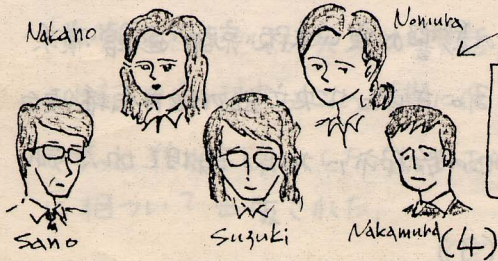
—— としょかんちとくらメモ、①購入希望図書 ——

図書館では継続して購入している資料(定期的に発行される雑誌、文学全集等のシリーズもの)以外の購入について、月2回の図書購入選定会議で選定を行なっています。出版ニュース、図書新聞、国会図書館納本収報などを参考に館員5人の選定委員が選定しています。ここでは、学生の希望図書も対象とします。この制度は利用者との意識交流のほとんどない現在、貴重な利用者の声として考えています。利用者の希望を尊重し、当館の特質、蔵書構成を考慮して選定しています。2階目録室の掲示板左下に図書購入希望票、投票箱を備え付けてあります。どうぞ御利用ください。

お知らせ 用架室は、4月19日(木)から用室の予定です。それまでは2階のカウンターで貸出返却して下さい。

運用課……とは、出納台に居る本の貸出返却を行うのを主な仕事としてしています。また、Reference Work(参考業務)も同時にしています。本を捜すことから調べもの手伝いまで請負います。わからないことは、たとえ小さなことでも尋ねてください。

今年度も、昨年と同じ顔ぶれであなたの来訪をお待ちしています。



運用課5人の顔顔+1ダ!

製作・著作
学習院大学図書館 運用課
目白1-5-1 (986)0221 内378
1979 4月10日(火)